

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-----------------------|------------|-----------|
| 事業所番号 | 4190900045 | | |
| 法人名 | 有限会社 エムエス | | |
| 事業所名 | グループホーム 紫陽花の路 | | |
| 所在地 | 佐賀県嬉野市嬉野町大字下宿甲4714番地6 | | |
| 自己評価作成日 | 令和2年10月1日 | 評価結果市町村受理日 | 令和3年4月30日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigokensaku.jp/ |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|-------------------|--|--|
| 評価機関名 | 公益社団法人 佐賀県社会福祉士会 | | |
| 所在地 | 佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号 | | |
| 訪問調査日 | 令和2年11月10日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

建物が併設の医療機関と同じ敷地内にある事で、24時間医療サポートを受けられ、体調不良時や急変時は直ぐに対応してもらえるので、利用者家族共に安心されている。リハビリテーションとの連携もとれ、スタッフ間で話し合いを持ち、日常生活の中でもリハビリ継続できるように取り組んでいる。又、リハビリスタッフによる音楽療法が週1回行われており、呼吸機能、嚥下機能維持ができています。食事面では主治医の指示の下、療養食の提供や栄養士による栄養管理、医療面からの健康管理ができています。法人全体の勉強会や関係医療機関の研修、県の介護講座に参加したりしてレベル向上に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

嬉野市内の住宅街に佇むホームはJRの駅に近く、利便性も高い。建物は白を基調にした洋風の外観で、天井も高く開放的である。クリニックの併設ホームであるため、入居後も、外来や訪問でリハビリを継続し機能訓練を受けることが出来る。医療機関との連携が密に行われており、理学療法士、作業療法士がホームの職員と週に1度ミーティングを行い、入居者の情報を共有している。医療度の高い入居者の食事にも対応しており、腎臓食、心臓食の提供も可能である。新型コロナウイルス影響で外出が難しい中であっても、ホームの中で楽しく過ごす工夫に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|----|--|----|--|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) <input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) <input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) <input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|---|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 運営理念を作成し、施設内に提示している。 | 施設内に掲示し、誰もが確認することが出来る。新入職員に対しては、入職時の研修で説明が行われ、理念の周知が図られているが、入職時以降に理念に立ち返る機会が設けられていない。 | 理念が実践に結び付くような取り組みに期待したい。 |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 利用者の高齢化により外出頻度が少ないが、地域の方の訪問や地域の秋祭りの行事に参加している。回覧板も周り情報交換も行っている。 | 新型コロナウイルスの影響により、地域行事が中止になったため、例年に比べると地域との交流頻度は少なくなっている。しかし、地域の清掃作業に法人から参加する等、地域とホームとの関係性が継続する取り組みがなされている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 運営推進会議に参加して頂いている地域包括支援センターの代表の方から質問や相談を受け、地域貢献に活かすようにしている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、会議内で利用者様の健康状態や実施した行事などを報告している。約半年は新型コロナウイルス感染予防対策の為会議は開催せずに書面にて報告を行っている。 | 新型コロナウイルスの感染予防の観点から、令和2年4月以降は書面で開催している。書面にはホーム内の様子も写真で添付し、入居者の様子が伝わりやすい工夫が講じられている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 運営推進会議に参加されている地域包括支援センターの方に相談や報告を行っている。 | 日常的に交流があり、協力関係を築いている。相談しやすい関係にあり、地域包括支援センターが行うケア会議にも定期的に参加している。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 併設の病院での身体拘束委員会に毎月参加したり、勉強会に参加するなどして職員全員が理解している。車椅子やベットからの転落にも十分注意し、拘束しないケアに取り組んでいる。 | 病院の身体拘束適正化委員会に参加し、ホームとして身体拘束に関する理解を深めている。言葉による行動抑制にも十分注意し日々のケアを行っているが、建物の入口に段差やスロープがあるため、玄関の鍵は施錠されている。 | 段差を認識できる工夫を講じ、短時間から開錠する等、施錠が常態とならない取り組みに期待したい。 |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 研修会や勉強会には積極的に参加するように努めている。必要時はカンファレンスを行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 制度に関する勉強会に参加し学習している市役所に話を聞きに行ったりした。これまでに支援の機会はない。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約書、重要事項説明書の内容を十分説明し、不明な点や質問等には丁寧に答えるように努めている。料金改定時も説明を行い同意承諾を得ている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 家族様の面会時や計画書の見直し時に家族様に面談し、意向や要望を確認している。運営推進会議時に意見を出してもらっている。また玄関に意見箱を設置している。 | 家族が面会に訪れた際に声掛けし、意見がないか尋ねている。また、月に1度発行するホーム便りには、職員が手書きで普段の生活の様子がわかるような文章を一人ひとりに書き添えている。家族とは、話しやすい雰囲気であり良好な関係性が築かれている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 必要に応じて法人代表者を交えて話し合いが行われている。法人代表者は申し送りや日々の業務の中でも職員から意見を聞き、運営に反映させている。 | 月に1度カンファレンスを開催し、職員からの意見を聞く場を設けている。その他、必要時適宜法人代表者と話し合う場を設け、運営に関し職員の意見が反映される仕組みが構築されている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 代表者は個々の職員と面接し相談に応じたり、併設グループホーム間で職員配置換えを行ったり、体調を考慮しながら働きやすい環境整備に努めている。勤務表作成の前に希望休みを取り、勤務表の中に反映させている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 一緒に働きながら指導が必要な所は管理者が指導し、職員全員で支えながら仕事に慣れられている。併設医療機関と合同で実施している各委員会発表会や勉強会への参加を勧めている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 地域包括支援センターが行っているケア会議にケアマネが参加している。又同敷地内に通所介護があり、情報交換を行い良い所は相談し業務に取り入れるようにしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|-----------------------------|-----|--|---|---|-------------------|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入所が決まった時点で本人に面会し、本人の困っていることや、要望、生活歴、趣味等を尋ね入所前に職員間で情報共有する事で、安心して頂けるように心がけている。言葉かけにも配慮している。 | | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 家族へのアセスメント聴取時に困っていることや要望等を気軽に話していただけるように雰囲気作りに努めている。 | | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 面談時に意向をよく聞き、他のサービス等の案内も行っている。 | | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 共に暮らす家族と思い接し、本人ができる作業や本人が望まれている事を一緒に行い、話を傾聴し馴染みの関係を築く事で、楽しく生活して頂けるように、職員一同心掛けしている。 | | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 毎月職員が生活状況や健康状態を手紙に書き家族へ郵送している。直接伝えたい時は電話連絡したり、面会時に状況を伝え、情報共有を行っている。 | | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 家族や友人の訪問時はゆっくり面会して頂けるように、話しやすい環境作りをし、また再来して頂けるように言葉かけに配慮している。併設の診療所受診時、リハビリ時には近所の方や知人の方との交流がある。馴染みの場所への外出は家族に協力して頂いている。 | 新型コロナウイルスの感染予防のため、馴染みの人等来訪者との面会は、ゆっくり過ごせる工夫を講じているが、現在は玄関先で行っている。クリニックでのリハビリの帰りに馴染みの場所へ寄る等の交流も図られており、関係が途切れないよう支援を行っている。 | | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 個々の個性を把握した上で、共に食事やレクリエーション、行事等に参加する事で関係を深め、孤立されないように座られる場所にも気を付けている。 | | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | これまでの関係を大切に、契約終了後も相談に応じている。併設病院へ入院されている方に対しては、面会に行ったりしている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 自室で過ごされている時や入浴時等1対1で関わる際に意向や希望を傾聴している。意思疎通が困難な方に限らず、表情や行動、日常会話等から気付きを観察し、記録に残し、スタッフ間で共有し、個別ケアに繋がっている。 | 入浴やおやつの時間等、入居者と1対1で過ごす場面では、本人とゆっくり話し、思いや意向の把握に努めている。発語が難しい方に対しても、日頃のケアを実践する中で、本人の表情や仕草からも本人の意向や思いの把握に努めている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入所時のアセスメント聴取時に生活歴や生活環境など細かく尋ねるようにし、又他方面からの情報収集に努め、入所時のケアに繋がっている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 毎日の朝、昼、夕の健康チェックや、各職員が把握できるように、個人ノートに日勤帯、夜勤帯の状況を記入するようにしている。朝、夕の勤務交代時に申し送りを行っている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 本人、家族の意向を基に職員の意見も取り入れながら、モニタリングや計画書の見直しを行っている。必要時には計画書の見直しを行い修正している。 | 介護計画の更新は6ヶ月毎に行われ、記録もわかりやすい形で整備されている。介護計画の更新の都度、サービス担当者会議を開催し、本人、家族、必要な関係者と意見交換を行い、介護計画に反映させている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 健康チェック表や個人記録に利用者のその日の生活状況の気付きを記入し、申し送りノートや診察ノートを活用しながら職員間で情報共有を求めている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 本人、家族の希望を取り入れて、サービスに繋げるようにし、日々の生活が単調にならないように工夫している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|-----------------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地域資源が少なく、数年来利用している顔馴染みの美容師さんに来てもらったり、民生委員の方や地域の秋祭りの担当の方に訪問してもらったり、地域のバンド慰問に来てもらったりしている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 入所者全員が併設のクリニックがかかりつけ医で、受診時には職員が付き添い、日頃の状況を伝え、特殊な検査等がある時は家族へ連絡し、必要時は面談されている。他医療機関受診時は家族支援を依頼し、受診後情報共有を行っている。 | 併設のクリニックは24時間対応可能であり、日中に利用者情報を共有し、夜間の急変に備えている。歯科や皮膚科、眼科等の専門医への受診支援も行われている。入居前の主治医を継続して利用することも可能である。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 併設のクリニックの看護師とは信頼関係があり、日頃より相談したり、来所時に状態報告しながら看護師の指示を仰ぎ、受診や看護がスムーズに受けられるように努めている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院された際は情報提供用紙に必要事項を記載して提出し、入院中は面会に行き医師、看護師からの情報収集に努めている。退院時は看護サマリーを依頼している。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | これまでに看取りはないが、家族と連携を取りながら、状態変化時は主治医より家族へ説明や意向の確認をもらい、職員は看護師と情報共有をしながら介護を行う。 | 看取りの指針や、マニュアルが整備されており、職員間での共有もなされている。入居時に、重度化した際のケアについて本人や家族に説明し、同意を得ている。また、状態変化時等、必要時には適宜、本人や家族に対しホームで出来ることと出来ない事等を説明している。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 定期的な訓練は行っていないが、急変時の必要物品等の備えはできている。急変時は併設のクリニックの主治医、看護師に連絡し早急に対応してもらう。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 併設医療機関と連携し、年2回火災避難訓練を実施。入所者の身体状況や出火場所により避難経路、夜間の対応、連絡網に付いて話し合っている。非常食の確保はできている。 | 年2回、火災避難訓練を実施している。訓練は併設のクリニックと合同で行い、避難経路や連絡経路の確認も行われている。法人としての対応や、避難体制も整備されているが、夜間想定訓練の実施や夜勤専従者の訓練参加について課題が残る。 | 夜間想定訓練の実施や夜勤専従者の訓練参加に期待したい。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 個々の生活歴、暮らしぶりなどを把握し、思いをくみ取り、相手を尊重して言葉かけができるよう配慮している。又馴れ合いにならないように、話し方や言葉使いなど職員通しで注意しあっている。大事な話の時は居室で話をするようにしている。 | トイレや入浴時、居室に入る際のノック等、入居者のプライバシーの確保に努めている。法人のオンライン研修では接遇を学ぶ機会があり、入居者の人格や誇りを尊重した対応に努めている。また、入居者への言葉遣い等で気づいたことがあれば、職員同士で互いに注意できる雰囲気も醸成されている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 本人の思いを引き出せるような雰囲気作りや言葉かけを行っている。自己決定できない方は本人の思いをできるだけ理解するように表情や行動の観察を行い、自己決定できるよう支援している。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 本人の望まない事はしないようにし、本人のペースや意思を尊重して支援するように努めている。レクリエーション等の参加も強制せず本人に任せて自由に暮らしてもらっている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 本人家族の希望に沿い散髪依頼をしたり、入浴日にはその日に着る洋服を選んでもらったり、着替えを行う時はこれで良いか声掛けをして行う。家族に馴染みの美容室に連れて行ってもらったり、化粧品も馴染みの物を支援してもらっている | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 入居時嗜好確認し苦手な食べ物については代替え食にて対応している。体調に合わせた食事形態を提供。毎回同じ食品にならないよう工夫している。できるだけ自力摂取できるよう努めている。誕生日には本人の希望の献立を準備するようになっている。 | 食事の形態のみならず、腎臓食や心臓病食等にも対応し、入居者の状態に合わせた内容の食事を提供している。また、外出先でおやつを食べたり、ホームの行事に合わせた特別食や外食支援も行われている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 併設法人の管理栄養士による献立で、栄養バランスは整い、個人の病状に合わせた食事提供ができています。朝、昼、夕、おやつ時に水分提供し、夜間も水分補給できるように居室に準備している。嚥下状態に合わせてトロミを付けている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後に歯磨き、義歯洗浄の介助を行っている。口腔内に異常がある時は歯科に相談し、必要時は受診している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 自立に向けて定期的には又は本人の希望時にトイレ誘導介助を行っている。夜間共同トイレ使用者には見守りを行っている。身体状況に応じポータブルトイレ使用。 | 排泄チェック表を活用し、一人ひとりのタイミングでトイレ誘導を行う事で、日中は出来るだけ便座に座り排泄できるよう支援している。トイレに誘導する際は、声掛けを工夫し、羞恥心やプライバシーに配慮している。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 毎日排便チェックにて排便状態を把握し、3日目には排便を促している。便秘時には水分補給や食物繊維の多い食事を提供したりしている。腹部マッサージや肛門マッサージを行っている。便秘薬を服薬されている方には状態を見て調整を行っている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 入浴は主に午前中に実施しているが、本人の状態に合わせて個別対応を行っている。入浴順番や時間も本人の希望を尊重し声掛けを行いながら支援している。体調により特殊浴対応も行っている。湯船にはゆっくり入ってもらうようにしている | 1週間に2日の入浴を基本としているが、風呂は毎日沸かし、本人の状態や希望に合わせた入浴支援を行っている。機械浴にも対応しており、浴室内は明るく清潔に保たれている。入浴時は、一人ひとりの時間を30分程度確保し、ゆっくりと入る事が出来る。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 個々の生活パターンを把握し、本人の意向に沿い休息の声掛けを行っている。時間毎の体位交換の実施、症状に応じて下肢の挙上、上体の挙上を行っている。快適な温度、湿度になるように除湿器、加湿器を使用している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 薬局から提供された説明書を確認し、効果や用法用量を理解して服薬管理を行っている。薬変更時は個人ノート、申し送りノートに記録し、職員間で情報共有している。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 個々の能力に応じて洗濯物たたみ、壁画作り、新聞折り等を手伝ってもらっている。誕生会では特技を披露される方もおられる。誕生会には本人の好物を準備している。季節に応じたドライブ実施。(現在コロナで中止) | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 入所者の高齢化や重度化、又はコロナの影響もあり外出の機会が激減している。天気が良い日は気分転換に周辺を散歩してもらっている。時には家族に電話して声を聞いてもらっている。 | 外気浴や近隣の散歩を日常的に行い、感染症対策を行いながら、花見や福祉施設での催事や地域の行事にも出向いている。近隣を散歩する際は、近隣住民との会話を楽しむ等、地域との交流が楽しみなものとなるよう支援を行っている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 高齢化や重度化により金銭管理が困難な方が多く、お金を所持している方は少ない。所持されている方は所持していないと不安な方で、少額を所持してもらっている。必要時は家族に依頼して買い物へ行かれている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 入所者が希望された時は電話や手紙の手助けをしている。年賀状は家族宛てに出すようにし、本人に一筆でも書いて頂くように職員が対応している。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 床暖房とエアコンを併用し天井には空気を循環させる扇風機を設置。除湿器、加湿器、空気清浄機を活用し、温度、湿度を管理している。テーブル、椅子、手摺等1日3回消毒し感染予防に努めている。施設内には季節感のある壁画を作り飾っている。誕生会などの思い出の写真を飾っている。 | 季節感と生活感を大切にし、屋内の飾りつけや壁の掲示物にも工夫が施されている。1日3回、温度と湿度をチェックし、室内を快適に保つとともに、換気や消毒も1日に複数回行っている。職員同士の声の大きさや足音にも配慮がなされており、居心地のよい共用空間となるよう努めている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | ホールでの席は気の合った方同士座ってもらっている。独りで過ごされたい時は居室でゆっくりできる環境が整っている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 本人が大事にされていた馴染みの物や使い慣れた物など希望の品物を持って来て頂く事で、安心して過ごせるようにしている。又居室での物の配置は本人が使い勝手が良いようにしている。 | 持ち込み禁止の物は無く、本人が慣れ親しんだ物を持ち込むことが可能である。仏壇や写真、手作りの写真が飾られており、個性豊かな居室づくりが行われている。ベッドの向き等は本人の状態に合わせて、本人や家族と相談しながら配置している。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 廊下やトイレなど必要箇所には手摺、夜間の歩行時には足元の照明灯設置。自室が分かるように各部屋のドアの色が違い、部屋の入り口には名前を貼っている。室内はバリアフリーで、玄関には椅子を置く事で靴の履き替えがしやすいように工夫している。 | | |